イノベーション立国日本プログラム　第三回会議レポート

日本を改革するヒントは

常識の壁を超える視点

2023.8.30(Wed) 15:00-18:00　AKKODiS innovation Lab.

桜谷 慎一
プログラムディレクター

8月30日（水）、AKKODiS innovation Lab.にて「イノベーション立国日本プログラム」の第3回会議が実施されました。前回の会議では各チームのレバレッジポイントを決めたところで終了し、3回目となる今回はいよいよ日本の改革に向けて核心に迫る会議となりました。

今回はレバレッジポイントを起点として課題解決の糸口となる「Working Assumption（ワーキングアサンプション）」を見つける作業に取り組みました。私たちが当たり前だと思っている事象を抽出し、その見方を変化させることでイノベーションのきっかけを発見する重要な回になりました。

常識や前提を疑う
レバレッジポイントの限界を超えろ

今回もプログラムディレクターを務める桜谷慎一が進行を担いました。桜谷が「これまでは課題分析にフォーカスした内容で重いディスカッションが続いていたが、今回は明るい未来を語れる場で、今後の肝となるワークになる」と3回の中でも特に重要であるとしていた本ワークショップ。「レバレッジポイントの限界を超えることでイノベーションを生み出せる」として、どのような問題に立ち向かうにしてもまずはレバレッジポイントが大事であることを解説。各チームは、改めて何度も議論を交わしながら確認を行い、各チームのレバレッジポイントを決定しました。

各チームの取り組むテーマとレバレッジポイント

少子高齢化

- 結婚
- 企業業績の改善

ビジョンをつくる コミュニケーション

- 事業への投資

首都圏集中と 地方の弱体化

- 仕事の数が少ない
- 地方の働き口

© AKKODiS 2023

些細な困り事が
新しいソリューションのヒントになる

次にイノベーションを生み出すための5つのアプローチ法を紹介し、今回はその中のLimitation（リミテーション）という手法でグループワークに挑戦しました。LimitationとはUDE（Undesirable Effect：（現実に存在していて目標を妨げているネガティブ状態）と呼ばれる「困り事」を見つけることで、新しいソリューションを生み出す仕組みです。普段は常識の壁に隠れていて、説明することもないような自明の理を見つけることが重要になります。その事象は「Working Assumption」と呼ばれ、課題解決の本質に迫ることができます。

イノベーションを起こすヒントを探る
一番の難航部分も参加者の議論は白熱

各チーム、レバレッジポイントからWorking Assumptionを見つける作業を始め、課題解決の本質に迫っていきました。今回のワークではこの部分が最も難航を極めました。桜谷は、「UDEを探し出すのは、常識にとらわれていると非常に難しいもの。実際、今回のワークでは予想よりも皆さんが戸惑っていた印象があった」と振り返りました。

１回目から全ての会議に参加していて、事業戦略部門に所属しているという男性は「UDEを出すことが非常に難しかった。他のチームを見たときに、従来はそれが良しとされていることを悪と捉えていたり、常識の枠にとらわれない思考、アイデアが出ているチームもあり、新しい視点が非常に面白かった」と話し、苦戦しながらも意見を交わすことで得た視点に関心を高めていました。

© AKKODiS 2023

それは長年存在している“限界”か？
次回、日本を改造するアイデアが生み出される

活発な議論は1時間以上にもわたり、各テーブルを参加者が回って話し合いをする姿はチーム一体で日本を変えていこうという気概を感じるシーンでした。会議の終盤、「Working Assumptionは長年存在している“限界”か、覆した時のインパクトが大きい“限界”かが重要であり、それらを兼ね備えたアイデアは、イノベーションにつながる可能性がある」ことを解説しました。

参加者の一人は「今回は、未来に向けたワークだったので楽しみにしていたが、いくつかのチームでは、『思いもよらないアイデア』だと思うものが出ていた。最終回が非常に楽しみになっている」と期待を寄せていました。

桜谷は「他のチームのワークを見ることで、相互作用が働き、考え方が柔軟になってくる場面があった。これこそが、組織も立場も異なる多様な人財が集まって活動をする意義であり、『イノベーション立国日本プログラム』の本質だと感じた」と、会議を通じて手応えを感じていました。桜谷は最終回に向けてさらにブラッシュアップされることを期待し、「私自身が何かしら解をもっている訳ではないので、最終回でどのような方向性が見いだされるのかがとても楽しみ」と話しました。

Phase1の最後となる次回では、これまでのワークを統括して各チームが取り組む３つのテーマの課題解決の糸口を引き出し、11月下旬から開始するPhase2へと繋げる予定です。

© AKKODiS 2023

この国の「失われた30年」を取り戻す。

イノベーション立国日本プログラム